

体に負担少ない ロボット支援手術



©Intuitive Surgical, Inc.

- ① ロボット支援手術は、執刀医(緑の服を着ている左奥の人物)が遠隔操作で行う。手前の青い覆いの下に患者さんが横たわり、その上部に手術機器のロボットアームが見える
- ② 執刀医(左)が指令装置に座り、レバーやペダルを操作すると、その動きがコンピューターを通じてロボットの手術機器を動かし、繊細な動きを再現する
- ③ da Vinci Xi サージカルシステム

緻密な作業 部分切除や再建も

泌尿器科分野では平成24年4月に前立腺悪性腫瘍に対するロボット支援手術が保険適用となりました。これに伴い本院でも手術支援用ロボットであるda Vinci Xiが導入され、泌尿器科では同年11月から前立腺悪性腫瘍に対する手術が開始されました。その後、28年4月に腎悪性腫瘍に対するロボット支援下腎部分切除術、30年4月に進行性膀胱悪性腫瘍に対するロボット支援下膀胱全摘除術も保険適用となり、本院泌尿器科ではこれら全てのロボット支援手術に対応できるようになっています。

また身体の構造上、従来の開腹手術ではある程度の出血は回避できないことはよく知られています。ロボット支援手術では、より緻密な手術が施行可能となることから、出血量も極少量で、より侵襲度の低い、安全な治療ができるようになります。

本院泌尿器科は最新鋭の手術支援用ロボット「da Vinci (ダビンチ) サージカルシステム」を備え、前立腺悪性腫瘍や腎悪性腫瘍、進行性膀胱悪性腫瘍の治療に対応しております。

比較的小さいサイズの小さい腎悪性腫瘍に対しては、腎機能温存の観点から腫瘍のみを切除する部分切除術が推奨されています。しかしながら正常な腎臓に埋まっている埋没型の腫瘍や、大きな血管に近接している腫瘍では時に部分切除術は技術的に困難であり、やむなく腫瘍が存在する側の腎臓を完全に摘出する方法(全摘除術)が行われることもまれで

阪大病院 NEWS

No. 77 号

OSAKA UNIVERSITY HOSPITAL



2020(令和2)年1月25日発行

発行/大阪大学医学部附属病院広報委員会(総務課)

住所/〒565-0871大阪府吹田市山田丘2-15

TEL/06-6879-5111(代表)

QRコードから本院ホームページをご覧ください

<http://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp>

禁転載(この紙面は再生紙を使っています)

医療費 後払い システムについて

「診察が終わったら、少しでも早く帰りたい」。現在、診察や支払いで長時間待たされることは、病院に対するご意見の約3割を占めており、待ち時間の解消は大きな課題となっています。このため本院では新たに4月から医療費の後払いサービスを導入することとしました。後払いにすることで、料金計算を待たずにお帰りいただけます。

ご利用には、事前の利用者登録(無料)が必要になります。お手持ちのスマートフォンまたはパソコンで利用登録サイトにアクセスして、診察券番号やクレジットカード情報などを登録します。診察後に後払い専用受付窓口で診察券と基本カードを提出し、受付が完了すればすぐにお帰りいただけます。医療費は、登録したメールアドレスにクレジット決済結果と合わせて後日通知されます。

なお、支払いは登録したクレジットカードから一括払いで引き落とされ、分割払いはできませんのでご了承ください。また領収書と診療明細書は、クレジット決済結果のメールが届きましたら、病院内に設置する専用プリンターで印刷できます。

4月の導入に向け、利用登録サイトのURLなど詳細は随時、本院ホームページや患者さんに向けたリーフレットなどでお知らせする予定です。

いきものたちと一緒に手をきれいに



インフルエンザシーズンの到来に合わせて、本院では、吹田市のEXPO CITYにある生き物展示施設「生きているミュージアム NIFREL(ニフレル)」とのコラボによる「いきものたちと一緒に手をきれいに」と題する手指衛生のキャンペーンを行っています。

本院の玄関を入ると、ニフレルのいきものたちの足跡がついており、それをたどっていくと手指衛生のためのアルコールジェルのボトルの前まで来るという仕掛けです。足跡だけではどんな動物かわからないものですが、ボトルの前まで来ると正解

かわいい足跡



来院者の手指消毒を見守る木村正病院長(右)と越村利恵看護部長(中央)

ニフレルとコラボ

患者さんが多数おられ、これらの患者さんはインフルエンザ等の感染症にかかりやすかったり、かかった時に重症化しやすかったりします。この機会に、「病院に行く時は、何よりもまず手を消毒する」ということを社会全体の常識にしたいと、本院では考えています。

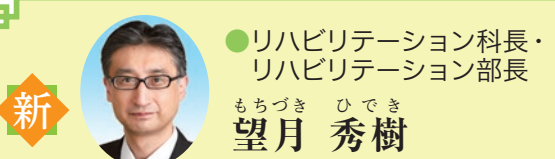


キャンペーンを盛り上げるため、玄関フロアの床にプリントされているイラスト

手指衛生キャンペーン

がわかります。今年度は東京オリンピック・パラリンピックが開催され、夏場でも海外から国内への持ち込み感染が懸念されています。厚生労働省もインフルエンザやMERS(中東呼吸器症候群)や麻疹に対する警戒を呼び掛けています。病院は免疫が極端に低下しています。

今年度は東京オリンピック・パラリンピックが開催され、夏場でも海外から国内への持ち込み感染が懸念されています。厚生労働省もインフルエンザやMERS(中東呼吸器症候群)や麻疹に対する警戒を呼び掛けています。病院は免疫が極端に低下しています。

●リハビリテーション科長・リハビリテーション部長
もちづき ひでき
望月 秀樹

このたび、リハビリテーション科長を拝命しました。リハビリテーション科は、運動機能障害や日常生活活動障害、コミュニケーション障害などの患者さんの機能改善・回復を目的に、リハビリテーション医療を提供しています。本院は、厚生労働省より心大血管リハビリ、脳血管疾患等リハビリ、運動器リハビリ、呼吸器リハビリ、がん患者リハビリの認定を受けております。理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が中心となり、多くの臨床科医師、看護師とが連携して、早い回復を目指して治療や指導を行っています。スタッフ一同で努力して参りますので、なにとぞよろしくお願いいたします。

(令和元年11月1日就任)

●消化器外科長
えぐち ひでとし
江口 英利

このたび消化器外科長を拝命しました。消化器外科は食道、胃、小腸、大腸、肝臓、胆道、膵臓など多くの臓器を対象としており、良性・悪性疾患、機能性疾患、炎症性疾患、臓器不全と臓器移植といった幅広い領域に対する診療を行っています。当科では、外科治療による患者さんの身体に対する負担を少しでも軽減できるよう、低侵襲手術を積極的に導入しており、また悪性疾患に対する治療では、新規抗がん剤や放射線治療などを併用した集学的治療を積極的に行い、治療成績の向上を目指した診療を行っています。今後も患者さんの立場に立った安全で丁寧な診療を心掛け、本院の発展と社会への貢献に邁進したいと思います。

(令和元年12月1日就任)

●血液・腫瘍内科長
ほせん なおき
保仙 直毅

このたび、血液・腫瘍内科長を拝命しました。血液・腫瘍内科では、白血病などの悪性疾患に対する薬物療法、造血幹細胞移植療法に加え、赤血球や血小板の異常をきたす良性疾患の治療を行っています。基礎医学の進歩を反映して、分子標的薬、抗体医薬、CART細胞療法などが新たに導入され、治療も著しく進歩しています。まずは、各診療科や院内のさまざまな部署と連携し、現在の確立された最高の血液・腫瘍内科診療を提供できる体制を整え、その上で、最先端の医療を開発していきたいと思っています。何とぞよろしくお願い申し上げます。

(令和2年1月1日就任)

新

診療科長等紹介

体の負担減らして根治

肺がんや肺移植に実績

呼吸器外科

呼吸器外科は、肺がん、重症筋無力症、縦隔腫瘍（左右の肺の間に発症する腫瘍）、気胸、膿胸、気腫性肺疾患など、呼吸器疾患全般の外科診療に携わっており、肺がん、縦隔腫瘍、肺移植に、特に実績があります。また、呼吸器内科、放射線診断・治療科が連携した呼吸器センターで診療を行っているため、同じ病棟内で、診断から内科・外科・放射線治療までを迅速に行えます。

術を積極的に取り入れていく。進行した肺がんに対しては、呼吸器内科や放射線科と連携し、がんを縮小する化学療法後に、根治のための外科手術を行います。さらには、これまで手術不応と考えられていた肺がんに対して、飛躍的に進歩した内科治療によって手術ができる状態になり根治を目指す場合もあり、手術適応はますます広がっています。

希少腫瘍である縦隔腫瘍の診療にも国内有数の実績があり、内視鏡手術を積極的に行うことで患者さんの負担を軽減しています。進行した腫瘍にも積極的に集学的治療を取り入れ、手術を基本とした治療法を提案しています。

肺がんは進行してしまうと予後が悪く、発症予防に何より大切なのが「禁煙」です。また喫煙により肺の機能が衰えていると外科手術ができません。

私たちは患者さんに寄り添い、一人一人の人生やQOL（生活の質）に配慮した治療を一緒に考えていきたいと思っています。決して諦めず、紹介状を持って当科にご相談ください。

肺がんは進行してしまうと予後が悪く、発症予防に何より大切なのが「禁煙」です。また喫煙により肺の機能が衰えていると外科手術ができません。

私たちは患者さんに寄り添い、一人一人の人生やQOL（生活の質）に配慮した治療を一緒に考えていきたいと思っています。決して諦めず、紹介状を持って当科にご相談ください。

私たちは患者さんに寄り添い、一人一人の人生やQOL（生活の質）に配慮した治療を一緒に考えていきたいと思っています。決して諦めず、紹介状を持って当科にご相談ください。

私たちは患者さんに寄り添い、一人一人の人生やQOL（生活の質）に配慮した治療を一緒に考えていきたいと思っています。決して諦めず、紹介状を持って当科にご相談ください。

私たちは患者さんに寄り添い、一人一人の人生やQOL（生活の質）に配慮した治療を一緒に考えていきたいと思っています。決して諦めず、紹介状を持って当科にご相談ください。

私たちは患者さんに寄り添い、一人一人の人生やQOL（生活の質）に配慮した治療を一緒に考えていきたいと思っています。決して諦めず、紹介状を持って当科にご相談ください。

小児医療センター

子どもに最良のケアを 専門職と寄り添う医療



薬剤師は、成長に応じた薬の量の調整や、薬を飲むのが苦手な子どもへのケア、新しい薬を始めるときにわかりやすく説明することで、治療の質を高め、幼い患者のストレスを減らしています。

病児保育士はプレイルームで集団保育や絵本を読み、子どもたちに楽しい時間を過ごしています。チャイルド・ライフ・スペシャリストは子どもや家族の心の負担や苦痛を和らげる専門職です。遊びや話を通じて、幼い子どもが治療について理解できるよう支援したり、不安な気持ちに寄り添ったりしています。入院中の医療事務をサポートするクラークや、退院後に安心して在宅治療を始められるよう支援するソーシャルワーカーもそろい、ご家族のケアも含めたサポート体制を組んでいます。

センター内には院内学級として、大阪府刀根山支援学校の分教室もあり、小学部と中学部で通常教育を受けることができます。児童・生徒の状態に合わせて、ベッドサイド授業にも対応しています。

外部団体や個人の方々からも多くのご支援を受けています。皆様からいただいた寄付金を活用して、入院している子どもたちが検査や手術に向かう通路の壁をかわいいた絵でペイントすることができました。また毎年のように、航空教室、腹話術、工作教室などの楽しいイベントも開催していただき、闘病する子どもたちの笑顔につながっています。クリニックの訪問は、いつも子どもたちを元気づけてくれます。

子どもの医療とは、病気を治すことだけでなく、家庭や社会など、背景にも目を向けて対応していくことが大切です。多職種で連携して、これからも安全安心な医療に努力を重ねていきます。

小児医療センターの入り口近くに完成した待合室

室と廊下との間に大きな窓と、非常用の扉を設けています。待っている兄弟姉妹の退屈を和らげるためDVDを流すモニターも設置しました。また、センターの看護師により楽しい装飾も施されました。面会に来られたご家族が安全安心、快適に過ごしていただける場となるよう願っています。

ホスピタルミニ・ニュース TOPICS

クリスマス回診

12/19



12/24



サンタ配膳

12月19日に毎年恒例のクリスマス回診が行われ、本院の医師や看護師、タレントの西田ひかるさんがサンタやトナカイに扮して、Osaka Great Santa Run（実行委員長：澤芳樹心臓血管外科長）から寄贈されたクリスマスプレゼントを小児医療センターに入院中の子供たちへ届けました。また、12月24日のクリスマスイブには、栄養マネジメント部によるサンタ配膳が行われました。

クリスマスコンサート

12/25



梅花中学校・高等学校ハンドベルクワイヤー部による演奏

延原事務部長おすすめ

中華御膳



- 汁無し担々麺
- エビマヨ
- ワンタンスープ
- ご飯
- ミルクティープリン

「食事から元気になっていただきたい」と延原事務部長と栄養管理室で検討をして、中華料理を昨年11月22日に提供しました。食器の下敷台紙は、明るい黄色の背景に、中国の観光地を載せた色鮮やかなものとなりました。

病院食の薄味のイメージを払拭するために、唐辛子や山椒などの香辛料を使ってメリハリをつけ、マヨネーズやごま油を使用し、香りやコクを出しました。デザートは流行に合わせたミルクティープリン！食欲のない方にも食べていただきやすいように、茶葉を何種類も試して作りました。「中華料理が病院で提供されるなんて驚きました」「しっかりと味付けされていておいしかった」とうれしい感想をいただきました。

同伴のきょうだいも 安全安心

小児医療センターに待合室

小児医療センターでは、感染症対策のため15歳未満の子どもの面会を禁止しています。そのため面会について来られた小さな兄弟姉妹はセンター内に入ることができず、センターの扉の外、エレベーターホールで待っていただくしかありませんでした。この状況は、安全確保や患者サービスの観点から、かねてより問題となっており、安全安心な待機場所の確保が望まれていました。

この度、中島和江病院長補佐を座長とする患者家族（同伴児童）待合スペース検討ワーキンググループが設置され、院外スペースも含めて種々の候補地を検討しました。その結果、ご家族の安心や利便性を考慮し、センター入り口にあったリネン庫を待合室に改修することにしました。リネン庫を移動するなど、センターの多大なご協力の下、待合室は昨年11月末に無事完成いたしました。

センター内から見守りができるよう、待合



小児医療センターの入り口近くに完成した待合室